

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：商工費 項：商工費 目：工鉱業振興費

事業名 次世代エネルギー-産業創出コンソーシアム事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 新産業・エネルギー振興課 エネルギー係

電話番号：058-272-1111 (内 2934)

E-mail：c11353@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 11,900 千円 (前年度予算額：9,900 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	9,900	4,810	0	0	0	0	0	0	5,090
要求額	11,900	5,810	0	0	0	0	0	0	6,090
決定額	11,900	5,810	0	0	0	0	0	0	6,090

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・ 県では、平成 25 年度に「岐阜県成長・雇用戦略」を策定し、「航空宇宙」、「医療福祉機器」、「医薬品」、「食料品」、「次世代エネルギー」の5分野を本県の成長分野と位置付け、重点的に企業の集積と規模拡大を図っている。
- ・ 上記「次世代エネルギー」については、岐阜県次世代エネルギービジョンを改定(平成28年3月)し、「地域資源(森林・水等)を活かした再生可能エネルギーの創出」「地産地消型エネルギーシステムの構築」「次世代自動車等の次世代エネルギー技術の使用定着による省エネ」の3つの重点プロジェクトを掲げ再エネ・省エネの普及促進及び産業振興に取り組んでいる。
- ・ 今後国際的な脱炭素化に向けてエネルギー関連市場の拡大が予測され、産学金官連携による次世代エネルギー技術の開発・製品化を促進し、県内へエネルギー産業を創出する必要性がある。

(2) 事業内容

○負担金	11,620 千円
・ 事務局運営費	188 千円

・ 講習会及び先進事例見学会開催事業費	377 千円
・ ワーキンググループ活動支援事業費	10,000 千円
重点支援：補助率 1/2、上限 400 万円	
一般支援：補助率 1/2、上限 200 万円	
・ 展示会出展支援事業費(メッセナゴヤ等)	740 千円
・ 部会活動事業費	315 千円
○ 事務費	280 千円
・ 旅費	280 千円

(3) 県負担・補助率の考え方

岐阜県次世代エネルギービジョンに基づく事業であり、県が実施することが妥当である。

また、次期エネルギービジョンにおいても「産業の脱炭素化プロジェクト」の重要施策の1つとして掲げており、県が実施することが妥当である。

コンソーシアムは県負担金と会員からの会費により運営する。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
負担金	11,620	事務局運営費、技術講習会及び先進事例見学会開催事業費、WG活動支援事業、展示会出展支援事業費、部会活動事業費
事務費	280	コンソーシアム事業の円滑な推進のための県運営費
合計	11,900	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

岐阜県次世代エネルギービジョン

岐阜県成長・雇用戦略

事業評価調査（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 産学金官が参画する「次世代エネルギー産業創出コンソーシアム」の会員が連携して、再生可能エネルギーの活用技術や新たな省エネルギー技術の調査・研究開発によって、県内エネルギー産業の創出を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R7)	達成率
						%
① 技術開発助成件数 (累積)		40件	45件	53件	68件	58.8%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> ・取組内容と成果を記載してください。 令和2年度総会の開催（書面議決） 令和元年度ワーキンググループ活動成果発表会実施 令和2年度ワーキンググループ活動支援補助金に2件交付採択（2,520千円）
令和3年度	令和5年度当初予算にて追加
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加

令和3年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和4年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） <small>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</small></p>	
(評価) 3	次期エネルギービジョンの柱である「産業の脱炭素化プロジェクト」の重要施策であるため
<p>・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） <small>3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 2	コロナの影響で、ワーキンググループの形成が困難であったため助成件数は伸び悩んでいるが、自立分散型エネルギーシステムに不可欠な蓄電池の開発が進んでおり、実用化が期待される。
<p>・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） <small>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</small></p>	
(評価) 2	次世代エネルギーに関連した技術講習会及び先進事例見学会を会員のニーズに応じて実施することにより、習得した知識・情報を基にしたワーキンググループ組成に繋げている。 また、ウィズコロナ時代に対応するため、リモートを併用した成果発表会の開催などを実施している。

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 研究機関の持つ技術シーズ（とりわけ岐阜大学）の有効活用などにより、ワーキンググループの形成を促進させていく必要がある。</p>

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 岐阜大学工学部教員をリーダーとして設置した、勉強会（2部会9分科会）の活動を促進し、所属する会員の知識・技術向上や、会員・リーダー間のマッチングを行い新規性の高いワーキンググループ構築を促す。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	